ルカ否カヲ裁判スル途ヲ開カズ

林委員　命令ヤ處分ガ法律ニ違反シタル場合如何

命令　入江法制局長官

入江法制局長官　第七十七條ハ憲法ト其他ノ法令トノ關係ニ付テハ當然裁判所ガ法律ニ違ヒ又ハ違ハザルヤヲ判定スル權アリト思料ス

第七十七條ハ憲法ト其他ノ法令トノ關係ニ付テハ當然裁判所ガ法律ニ違ヒ又ハ違ハザルヤヲ判定スル權アリト思料ス

キヲ置キ命令ヤ處分ガ法律ニ違反シタル場合當然裁判所ニ判定權アリト思料ス

個々ノ事件ニ關聯シテ判定スル權アリト思料ス

松本國務大臣　命令ガ法律ニ違フ場合當然裁判所ニ判定權アリト思料ス

命令ガ法律ニ違フ場合當然裁判所ニ判定權アリト思料ス

アリ法律ガ違憲ナルコトヲ裁判所ガ決定ス

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U S ARMY

ルコトヲ得ザルコト
ナルガ本憲法ハ之ヲ可能ナラシメタル所
ナリ而シテ之ガ運用ニ付テハ私見トシテ
事案ノ具體的ナ事件ニ當該司法權ヲ行使
ニテ判定シ而シテ具體的ナ事件ヲ離レ抽象的ニ
裁判所ニ於テ裁判スルヲ可トスト思料スルモノ
林委員
第七十七條第二項ト憲法違反ノ法律ヲ無効
トスル第九十四條トノ關係如何
松本國務大臣

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY 10 STAT

第一　憲法第九十四條ハ第七十六條第二項ト相對應シ地方自治ニ關スル基本的事項ヲ定ムルモノニシテ第七十六條ノ特別裁判所ニ關スル規定ハ之ニ當リ必要ニ應ジ判定スルモノナルカ如何

第二　憲法第九十四條ハ第七十六條第二項ニ依リ九十四條ノ内容ヲ制限スル條約ヲ省キタルガ他國ニ於テ破毀ニ得ザルガ故ナリ

第三　憲法第八十七條第二項ハ具體的ナ事件ヲ判斷スルニ當リ必要ニ應ジ判定スルモノナルカ如何

第四　憲法第八十七條ハ特殊ノ事件ニ關スル法律等ノ違憲性又ハ

松本國務大臣

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STAT

極密 院

第九十四條ノ規定ニ拘ラズ一應ハ有效ト認
メラレ之ニ爭アル場合最高裁判所ニ於テ違
憲ナリヤ否ヲ決定スルモノナリ

林委員
第七十八條但書ニ關シ政治ニ關スル犯罪ハ政治上ノ動機ニ基ク
八政治上ノ秩序破壞トノ二種アリ何レノ意味スルヤ

佐藤法制局次長
犯罪ヲ中心トスルモ兩方ヲ含ミ得ルモノニ
前者ヲ具體的ニハ法律ヲ以テ明カニセントス
シテ居ル

林委員長

出版物ニ關スル犯罪ヲ公開スルハ犯罪ノ性質ニ依リ却テ之ヲ世上ニ流布スル結果ヲ來スノ不都合ナキヤ

テ罰シ

佐藤司法省刑事局長

公開ノ結果公序良俗ヲ維持スルコト難キ場合ハ刑事訴訟法等ニヨリ憲法ニ反セサル程度ニ於テ之ヲ制限スルノ途ヲ講セン

トス

松本國務大臣

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STAT

但書ノ趣意ハ非常ニ廣ク解スルニ及バズ而
モ公開ノ内容ヲ大章ト
別ノ犯罪トナリ得ベク
附シ得ルモノト思料ス
河原委員
1 之ニハ一定ノ制限ヲ
第七十七條ノ第一項ト第二項トノ關係如
何
2 之法律等ガ違憲ナルヤ否ハ事件ヲ離レ單獨
ニ判定シ得ルカ
松本國務大臣

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STA 10

1. 第一項ト第二項ノ關係ハ別ノコトヲ見テ
差支ヘナシ即チ第一項ハ最高裁判所
審查ヲ判定スルハ最高裁判所專屬ノ管轄ヲ
否ナルコト第二項ハ法律等ガ違憲ナ
有スルコトヲ定ム下級裁判所ニ於テ
憲ナリヤ否ハ判定シ得ルモノト場合ニハ
結局上訴セラレ最高裁判所ニ於テ決定セ
2. 事件ヲ離レテ判定スルハ果シテ司法權ノ
作用ニ合マルルカ疑アリ結局事件ニ關聯

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U.S. ARMY

美濃部委員

第七十二條中、司法權ハ民事及刑事ノ裁判權ヲ
判ニ理解スベク之ニ含マレザル行政事件ニ付テハ如何ニ爲サントスルカ
松本國務大臣
司法權ノ解釋ヲ民事及刑事ノ裁判權ニ限ル
現行憲法及之ニ基ク法令ノ解釋ニシテ凡ソ法律關係ガ公法的ノモノナルカ又ハ私法的ノモノナルカ極メテ不明瞭ナレバ苟ク

秘
SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY 10 STAT

権利ノ保護ニ關スルモノハ司法權ノ作用ニ
解シ得ベク本案ハ之ニ從テ第七十二條第一項ニヨリ行政事件
シテ從テ第七十二條第一項ニヨリ行政事件ニ
ノ裁判ヲ最高又下級ノ裁判所ニ於テ之ヲ行
判ヲ最高又下級ノ裁判所ニ於テ之ヲ行フ
トス

美濃部委員

然ラバ茲ニ司法權トハ廣ク裁判權ノ意ナリ
ヤ卽チ一切ノ裁判ガ總テ之ニ含マルルヤ

松本國務大臣

苟クモ國民ノ權利義務ニ關スル法規ノ解釋

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STAT

美濃部委員

松本國務大臣

二依ル裁判ナシバ司法權ノ作用ニシテ第七十二條第二項ニ依リ別ニ特別裁判所ヲ置カザルナリ

然ラバ學生ハ本案ノ第二十四條ニ依リ教育ヲ受クル權利ヲ有スルガ退學ヲ命ゼラルヽヲ得ルヤ

否ヤハ立法ノ問題ナリ

退學等ニ救濟ヲ與フルトキ訴訟スルコトヲ得ルヤ

美濃部委員

第七十二條第二項ノ終審ニ非ザル裁判

法權ニ關シ憲法ノ解釋ニ關スルモ如何

一項ニ含マレザルヤ又含マルトスレバ同條第

松本國務大臣

第二項ハ例外ナリ

美濃部委員

許願ノ裁決ヲ以テ確定スルコトヲ許サザル

カ

松本國務大臣

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U.S. ARMY

権利義務ニ關シ法律上ノ解釋ニ依リ決スルヲ
モノハ實質的裁判ニ當リ行政機關ニ於テ
終的ニ判決スルコトヲ得ザルモ裁判所ニ於テ之ヲ確定
關スルモノハ行政機關ニ於テ最
美濃部委員
然ラバ如何ナル行政事件ヲ以テ出訴シ得ル
モノト爲スカ
松本國務大臣
出訴シ得ル事項ハ限定スルコトトシ立法ニ
完

SIGNAL CORPS PHOTO U S ARMY STAT

當テヲ定メントス

美濃部委員　（正午ー午後一時休憩）

行政裁判モ司法權ノ一部ナリトセバ第五十
一條及第六十條ノ彈劾裁判ノ如キモ司法
作用ニシテ即チ國會ガ司法權ヲ行フモノ
ト解スベキカ即チ此等ハ第七十二條ノ例外
規定ナルカ

ノ

ト

入江法制局長官　行政ニ關スル裁判ガ總テ司法權ニ屬スル
ヤ

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U S ARMY

松

芙

八明瞭ナラズ選擧許訟當選許訟ノ如キ公
法權ト謂ハンヨリ行政的性質ヲ帶ビタ
ノト思料ス彈劾裁判モ國民ノ權利義務ニ
對スル爭ナラザルガ故ニ實質的ナル司
濃部委員
權ノ作用ニ入ルルコトハ無理ナルベシ
海員審判所、簡易保險審査會ノ如キハ第
二條第二項ニ反スルモノナルカ
松本國務大臣
海員懲戒ノ如キ特殊ノ關係ニ在ルモノ
ノ懲

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U S ARMY

戒ハ司法權ノ觀念ヲ以テ解セラルベキニ非ス
ズ簡易保險審査ハ單ニ中間的手續ニ過ギズ
一般國民ノ權利義務ニ關スル事件ハ司法權
ニヨリ判定セラルルモノ特殊ノモノハ自ラ別
ナリ

美濃部委員

町村ノ境界爭ノ裁定ハ如何ニ爲スカ

松本國務大臣

法人ト法人ノ權利義務關係ニ付テハ等シク
裁判所ニ於テ最終的ニ決セラルベキモノト

SIGNAL CORPS PHOTO U S ARMY STAT

美濃部委員

一、裁判所ノ中ニハ陪審員モ含ムカ然リトセ
バ第七十二條第三項ノ裁判官ニハ陪審員
モ含ムヤ

二、同項ノ法律ニハ命令ヲ含マザル意ナリ
江法制局長官

一、裁判官ニハ陪審員ヲ含メズ

二、第三項ノ法律ハ形式的ノ意味ノ法律ニ
テ命令ヲ以テ裁判官ノ拘束スルハ適當ナ

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U.S. ARMY

美濃部委員

第七十七條ハ命令、規則、處分迄モ掲ゲルニ第七十二條ハ裁判官ガ憲法法律以外ニ拘束ヲ受ケザルコトト入雨ノ關係如何

第八十七條ハ司法權獨立ノ趣旨ヲ以テ特ニ掲ゲタルモノナリ

入江法制局長官

之ラズトノ趣旨ニ依リ法律ノミヲ掲ゲタルモノニシテ從テコノ法律中ニハ解釋上其ノ延長タル委任命令ヲ含ムモノナリ

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U.S. ARMY

遠藤委員
新憲法
松本國務大臣
個人的構想トシテハ最高裁判所ハ裁判官ノ構成ヲ問フ
員數ヲ現在ノ大審院ヨリ少クシテ之ニ助手
ヲ配シ更ニ事務局ヲ設ケ下級裁判所ハ控訴
院ヲ強化シテ行政事件ハ其ノ管轄トスル
外概ネ現行通ト為サントス
遠藤委員
現在ノ行政裁判所ハ特別裁判所ニ非ズ一種

SIGNAL CORPS PHOTO U S ARMY STAT

松本國務大臣ノ行政官廳ナリト思料スルモ如何

遠藤委員

松本國務大臣

本案ニ於テハ現在ノ行政裁判所ノ職權ハ司法權ノ作用トナルモノナリ

許願ノ如キハ司法權ノ範圍外ト考ヘテヨキカ

松本國務大臣

權利義務ノ決定ニ關スル裁判的意味ヲ持ツモノハ終審トシテニ非ザル限リ行政機關ニ

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U.S. ARMY

於テ裁判スルモ差支ナク其ノ司法權ニ屬ス
ルヤ否ヤハ憲法ノ運用ニ付問題トナルコト
ナシ
遠藤委員
然ラバ行政裁判所ハ新憲法ノ下ニ於テモ存
續シ得ベク本官ハ終審トシテデナク之ヲ存
置スルコトヲ希望ス
松本國務大臣
憲法上ハ差支ナシト考フルモ之ヲ存置スル
要ナシト思料ス

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STAT

遠藤委員

第七十五條ニ關シ内閣ノ
國民ノ審査ニ付スト云フ
ベシ評議ヲ公開スル
ナルヲ不適任ナリヤ不適任ナリヤ
ガ適任ナリヤ不明ナル者ニ判斷セ
ミナレバ寧ロ此ノ制度ハ廢止スルニ如
カズ
ノ權利例ヘバ第二十三條
スルハ弊害ヲ伴フコトヲ認ムルモ之ヲ

SIGNAL CORPS PHOTO U S ARMY STAT

削除シ得ザルカ

松本國務大臣

政府原案トシテハ削除ノ意ナシ

閣屋矣員

第七十五條第四項ノ報酬ハ通常ノ官吏ノ給ト異ナルヲ規定シタル理由

議會ノ之ニ關與シ得ザル意ナリヤ

江法制局長官

官吏ノ俸給ト同一ノ觀念ナルヲ以テ憲法上特ニ之ヲ保障シタル獨立ノ見地ヲ以テ憲法上特

極秘

密

219

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U S ARMY

松本

ト在任中減額セザルノ點
ニ意義ヲ有ス國會ノ審議權ヲ拘束スルト云
意味ニ非ズ

國務大臣

新憲法ハ現在ノ大權ニ基ク既定ノ歲出ニ關
スル規定ヲ缺クガ故ニ國會ハ行政官ニ付其
給ヲ減ジ得ルモ裁判官ニ付テハ一定ノ
報酬ヲ國庫ノ義務ニシテ若シ定額ク豫算ニ
計上セラレズ一定ノ報酬ヲ受ケ得サルトキ
ハ司法上ノ保護ヲ求メ得ベク從テ現行憲法

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STAT 10

230

第六十七條ニ於ケル上結果ニ於テ同様ノ
潮委員長
行政事件ニ關スル裁判ノ機構ハ如何ニ
カ
松本國務大臣
行政事件ヲ扱フニ應ハシ
政部ヲ置キ最高裁判所ニ控訴院ヲ
當セシムルコトトシ行政
部ヲ置クヲ適當ナル判
潮委員長
事ヲシテ事件
ノ
簡ニ
所行

枢密院

第二十二條　行政裁判ノ資格ハ如何ニ
ス　ト雖モ行政裁判ノ行フコトヲ得ル
ヲ知ラ
ニヨリ行政裁判ヲ行フ
ヲ以テ行政部ニ置キ行政裁判所ノ
ヲ現制ニ於ケル判事ノ資格ノ
ヲ求ノ行政官ノ職ニ在リタル者ヲ採
適當トスルヲ
次第委員ニヨリ財政ヲ議題ニ供ス
林委員長ハ第七章
次第委員
第八十二條ニハ毎會計年度ノ豫算ト
次年度ニ豆ルモノハ

現行憲法ニ於ケル如ク繼續費ノ制度ハ
認メラレザルカ
第江十二條ハ現行憲法ノ
法制局長官
ニ非數同年度ニ云フハ例外
ノ年ニ亘ルモノノ存在ヲ否定シタル趣
旨ニ從テ毎會計年度ノ
豫算ヲ以テ
繼續費ニ關シテ
ハ會計法中ニ規定
スル旨ノ
ヲ
ニ
ハ
ヘ
林委員
現行法ノ豫算外支出
即チ豫備費ヲ以テ
賄ヘ

樞密院

223

SIGNAL CORPS PHOTO 10 5781 U.S. ARMY

サル場合ニ支
入江法制局長官
第八十三條ハ豫見シ難キ豫算上ノ
ス豫備費ヲ以テ支出シ他ニ責任又ハ
ルコトナシ
松本國務大臣
新憲法ハ國會ノ議決ニ重キヲ置キ前年度剰
餘金アルモ責任又出ヲ認メズ新制度ニ於テ
ハ實際上議會ノ召集繁ク且會期永カルベキ
ヲ以テ不都合ノ不足ハ必ツトナシト思料ス尚第五十

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U.S. ARMY

保ノ規定モ存スレバ責任又出ヲ認ムル
ナシト思料ス

林委員 豫算不成立ノ場合ノ措置如何

八田法制局長官 特別豫算ノ規定ヲ設ケズ然レバ直ニ議會ヲ開キ成立セシムルノ外ナシ議會ノ開會ヲ待ツ計法ニヨリ假豫算ヲ成立セシムルノ外至ル迄ノ措置トシテハ會計法ニ依ル繰越使用ヲ認ムル外豫算ノ設ケ又ハ豫備費ノ措置可能ナルニ非ズ

等ニヨリ半月乃至一月ノ要

SIGNAL CORPS PHOTO STAT U.S. ARMY

松本國務大臣

前年度豫算踏襲ノ制ハ外國ヨリノ攻撃モ
リ實際上モ必スシモ適當ナラサルカ故ニ
ヲ廢シ寧ロ會計法ニ於テ適宜ノ方途ヲ講ス
ハ可ナリト
。

林委員

債務ヲ負擔スル條約ニ付第八十一條ト第
十九條トノ關係如何
江法制局長官

條約中ニ債務ヲ負擔スルモノアルトキニ

付　六　ノ之ア

ORIGINAL COPY
PHOTOSTAT

入林

テハ目下研究中ナルガ第六十九條三號ガ第八十一條ノ特例ヲ爲スモノナリト解ス

八十一條ノ特例ヲ爲スモノトセバ第八十四條ニ付世襲財産ノ決定ハ何ニ基キテ之ヲ爲スカ

委員

江法制局長官

世襲財産ノ決定ハ皇室財産法ニ規定シ其範圍ハ政府ト宮内省ニ於テ決定シ得ル如ク爲サントス現在ノ世傳御料ハ即チ世襲財産ノ一ニ非ザルモ實體ニ於テハ世傳御料ト同樣ノ

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY 10 STAT

林委員

松本國務大臣

一、安當ナラスト思料入ル凡テ國有トス
也幾財産以外ノ皇室財産ヲ
ルモ如何

茲ニ所謂財産ハ御身辺ノ道具ノ如キヲ含
スト解スルヲ相當トシ之ノ條文ニ明定セ
ルモ精神上ヨリ斯ク解スルコト可能ナル
シ尚第八十一條ト第六十九條トノ關係ニ
例ヘバ國ノ賠償條約ヲ結ガトキハ第六十
九條ニ

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U.S. ARMY

225

係ノ規定ノ如ク議會ノ事後承認ヲ求ム
合アリ而モ債務ヲ負ヒタ
致シ難キニ由リ結局第六
ル場
トモ
スル

林委員ノ第一八十四條ニ關シ、法律ヲ定ムル以上ハ如何ト
江ノ意味如何
入

内閣法制局長官

室ノ交出ニ付テ限定的ニ豫算ニ計上セラレ
皇室ノ經費」

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U.S. ARMY

國會ノ同意ヲ要スルナリ

林委員

一、第八十五條ニ關シ公ノ支配ニ屬スルト否ヤ

二、本條ノ立法趣旨如何私立學校ニ補助アリ

入江

一、法制局長官

二、法令ノ根據ニ依リ國又ハ公共團體ガ指導監督スル關係ヲ公ノ支配ト云フ

三、本條ノ立法趣旨ハ感情ニ訴ヘル事業ニ

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U.S. ARMY

林委員

第　夕

ヲ施ス事業ハ私ノ關係ニ於テ爲スベキモノニシテ公ニ之ヲ爲スハ恩ヲ責ルノ結果トナルニ由リ權力ノ色彩ナキ者ヲシテ自由ニ爲サシムルコトヲ而シテ私立學校令ニ基キ國家ノ特別ノ監督ニ服スルヲ以テ公ノ支配ニ屬シ從テ之ニ對シ補助ヲ得ルモノナリ

委員

第八十七條ニ付國會ニ於テ國民ニ對シ左ノ書分ケルル理由ニ他ノ國政一般カラ之ヲ引離シ特

秘密　樞密院

231

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U S ARMY

ニ國ノ財政狀況ヲ報告セシムルコトトシ
ルノ理由如何
入江法制局長官
財政關係ハ直接國民ノ負擔ニ關係アレバ
會ノ外ニ國民ノ了解ヲ得ル爲ニモ財政狀況
國政一般ガ察知セラルルニ由リ特ニ之ヲ
告セシムルコトトシタ
松本國務大臣
報告ニ關聯シ其ノ他ノ報道等ニ付テモ
個々ノ政治狀況ハ新聞其ノ他ノ報道等ニ
リ明ナルモ財政狀況ハ然ラザルガ故ニ
一層ノ理由ニ

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STAT

報告ノ要アリトス尚第八十五條ハ素性
シ ザル事業等ニ對シテハ公金等ヲ支出シ得ザ
ル原則ノ示シタルモノナリ

河原委員

第八十三條中、内閣ノ責任ニ」ト云フノ趣旨如何

人江法制局長官

單ニ道義的意味ノミ

河原委員

第八十四條ノ皇室財産ノ意義如何

人江法制局長官

極秘 枢密院

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STAT

世襲財産ヲ意味シ前段ノ皇室ノ財産トハ別ニ
ナリ而シテ前段ハ世襲財産ヲ解除スル場合ニ非
ズ猶豫ヲ含ミ從テ必ズシモ經過的規定
河原委員
第八十四條ノ「皇室の經費」ハ計上セラルベク從テ議會ノ
一般ノ豫算ニ計上セラルヘキ
八ノ議決ヲ要スルハ當然ナルガ茲ニ云フ意味ハ特
入江法制局長官
一般豫算ナルカ

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U S ARMY

二皇室ノ支出トシテ豫算ニ計上セラルヽ
用ニ付同意ヲ要スベキ旨ヲ強調シ事實上
一豫算ニ對スル一個ノ議決ニ含マルベシ
河原委員
第八十六條ノ次ノ年度ノ意義如何
佐藤法制局次長
決算ハ檢査院ガ檢査シ其ノ
次ノ年度ニ國會ニ提出スルコトトス
美濃部委員
第八十四條ニ付皇室ニ對シ也襲財産以外ノ

SIGNAL CORPS PHOTO U S ARMY STAT

皇室典範中改正ノ件（相續ニ關スル件）

SIGNAL CORPS PHOTO 10 U.S. ARMY STAT.

遠藤委員

ハ國ノ財産ト十八ナリ然ラ

ザルトキハ國ノ財産トシ皇室ノ財産トスレバ皇

ラ世襲財産ト

リ國民トノ間ニ財産ノ

ル所ハ專ラ世襲財産ノ

ノ私ノ財産ノ二種アリタ

ノ財産ニハ世襲財産

皇室ノ財産ニハ世襲財産

ハ天皇皇族等

調和如何

江法制局長官

財産ヲ認メザル趣旨ト

ルカ第八條ト關係

ノ關係

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STAT

第八十條ニ關シ稅率ノ變更ニ付規定ヲ設ケラレタキ由如何

佐藤法制局次長　別ニ規定ヲ設ケル必要ハナイト考ヘル

遠藤委員　第八十二條ニ審議ヲ經テ稅率ヲ變更スル場合ニハ豫算ヲ以テ政府ニ於テ提出スル等ノ差違アリ斯ル文字ヲ入レタキ理由如何

佐藤法制局次長　豫算ハ必ス政府ニ於テ提出スルモノニアラス

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U S ARMY

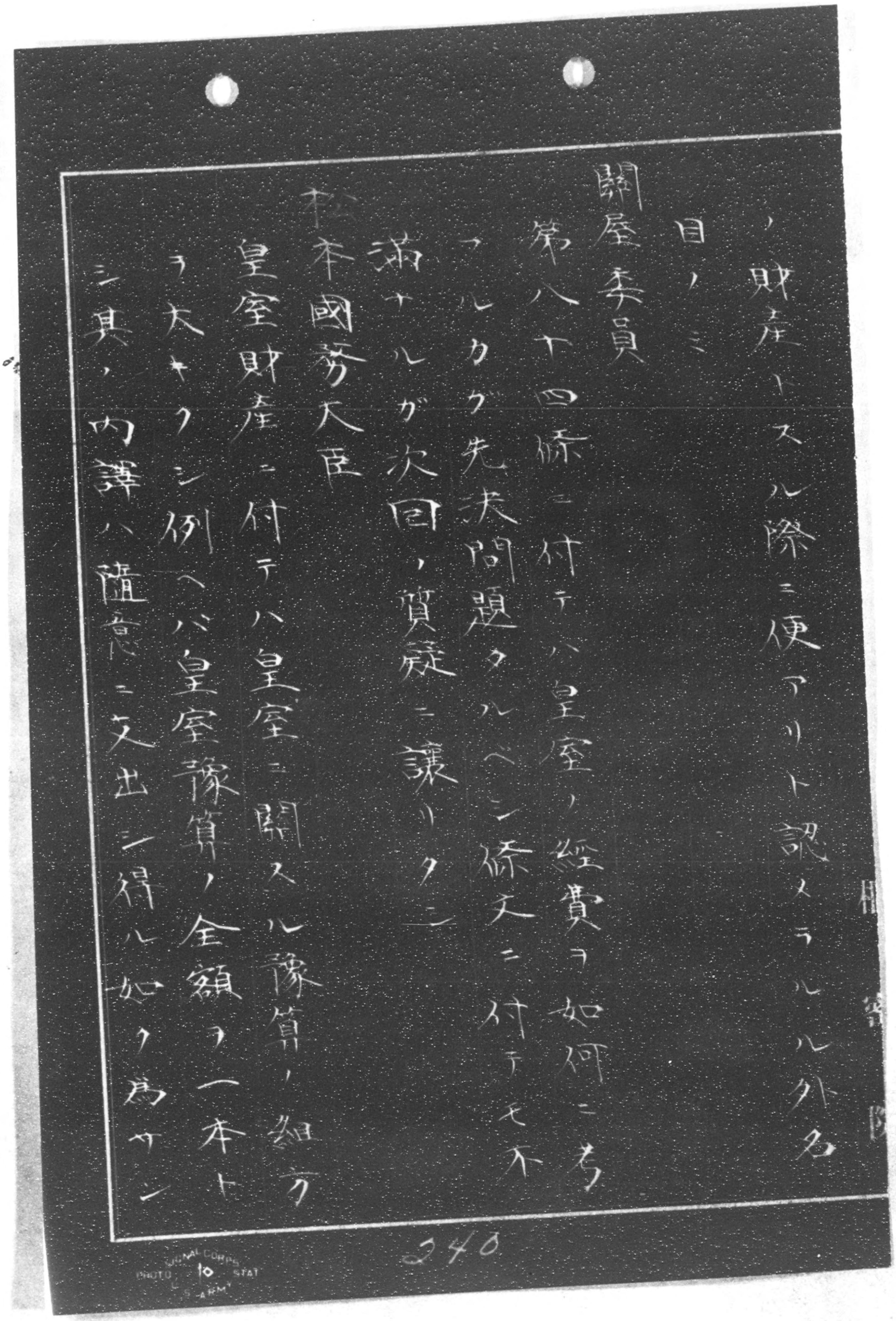
極密 院

處理ノ人
處理ノ第八十四條ニ付皇室財産ハ世襲財産ト考フ
ルモ如何ス皇室財産カラ生ズル收益ノ取
皇室ノ經費ニ充テラルル豫算ニ計上シテ國會
ノ同意ノ要スルモノト
江法制局長官
然リ
處理終了
收益ハ當然皇室ニ入ル
コトトシテヨロシイデス

PHOTOSTAT SIGNAL CORPS U.S. ARMY 10

入江法制局長官ニ對シ費用ヲ賄フコトヲ望ミシト考フルモ何ソ
入江法制局長官ニ關係ナキ事ニシテ外務方面ト折衝シ結果國庫ノ收入トナルヘキ
遠藤委員ニ於テハ收益ヲ保持セラルヘキ
入江法制局長官ニ於テハ收益ヲ保持セラルヘキ
唯タ法制局長官ニ於テハ何ソ
入江法制局長官ニ於テハ何ソ

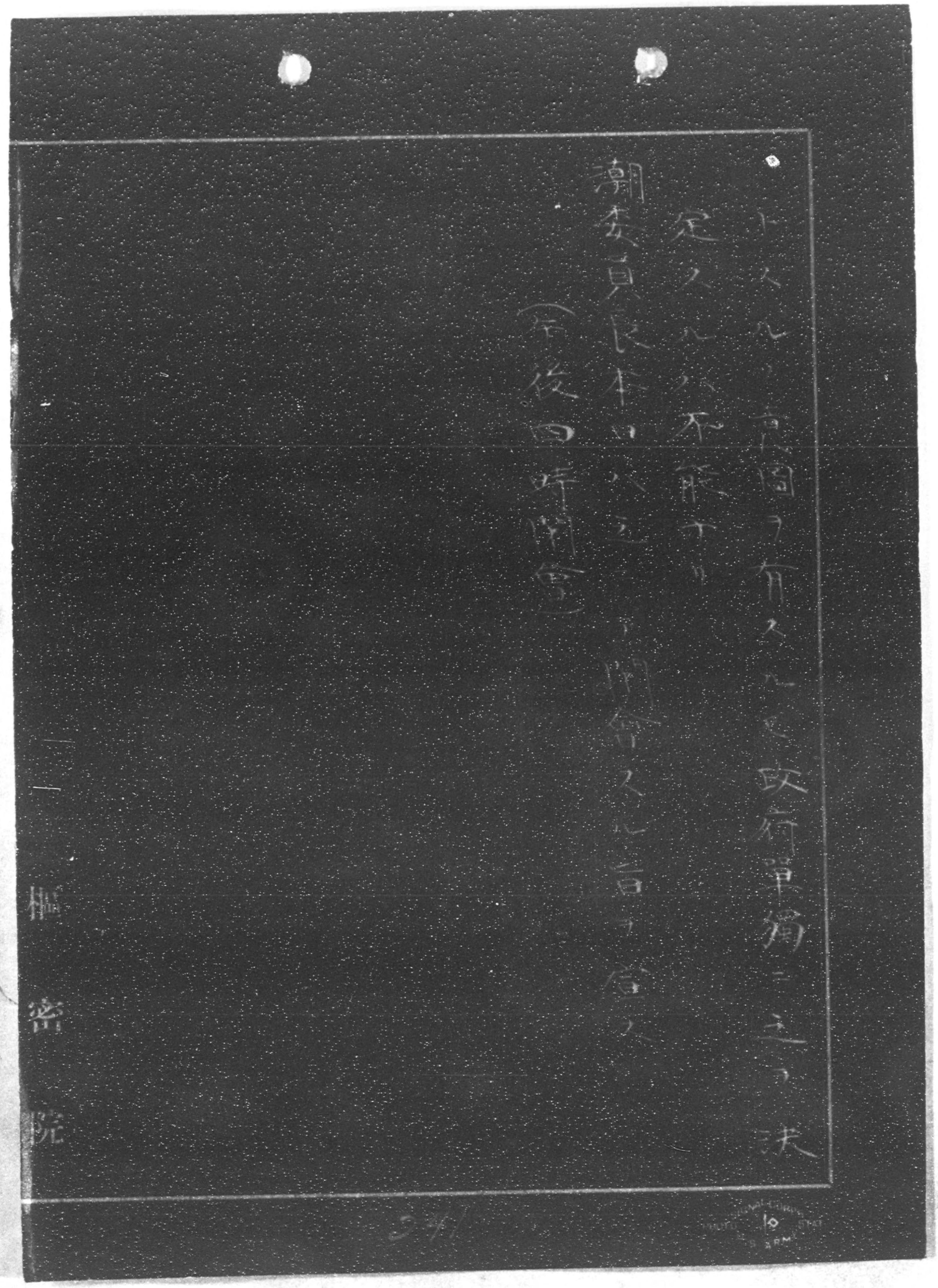
SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U.S. ARMY



閉院ノ財産トスル際ニ便ア
リト認メラルル外名
目ノミ
屋委員
第八十四條ニ付テハ皇室ノ經費ヲ如何
フルカク先決問題タル
ベシ依テ
滿ナルガ次回、質疑
ニ讓リタシ
本國務大臣
皇室ニ關スル豫算ノ
皇室財産ニ付テハ皇室
ラ大キクシ例ヘバ皇室豫算ノ全額ヲ一
シ其ノ内譯ハ隨意ニ
為サント細カ
一本

PHOTO 10 STAT
U.S. ARMY

F13-072


潮委員
定ト
心ヲ
本
不
ル
ル
政府單獨ニ
時閉會
ル
ル
ル

178-072

第九十帝國憲法改正案ヲ帝國議會ノ議ニ付スルノ件

樞密院ニ帝國憲法改正案審査委員會ヲ置キ之ヲ組織スル委員ヲ定ムルノ件

昭和二十一年五月十五日(水曜日)樞密院事務所ニ於テ開會

出席者

議長　鈴木貫太郎

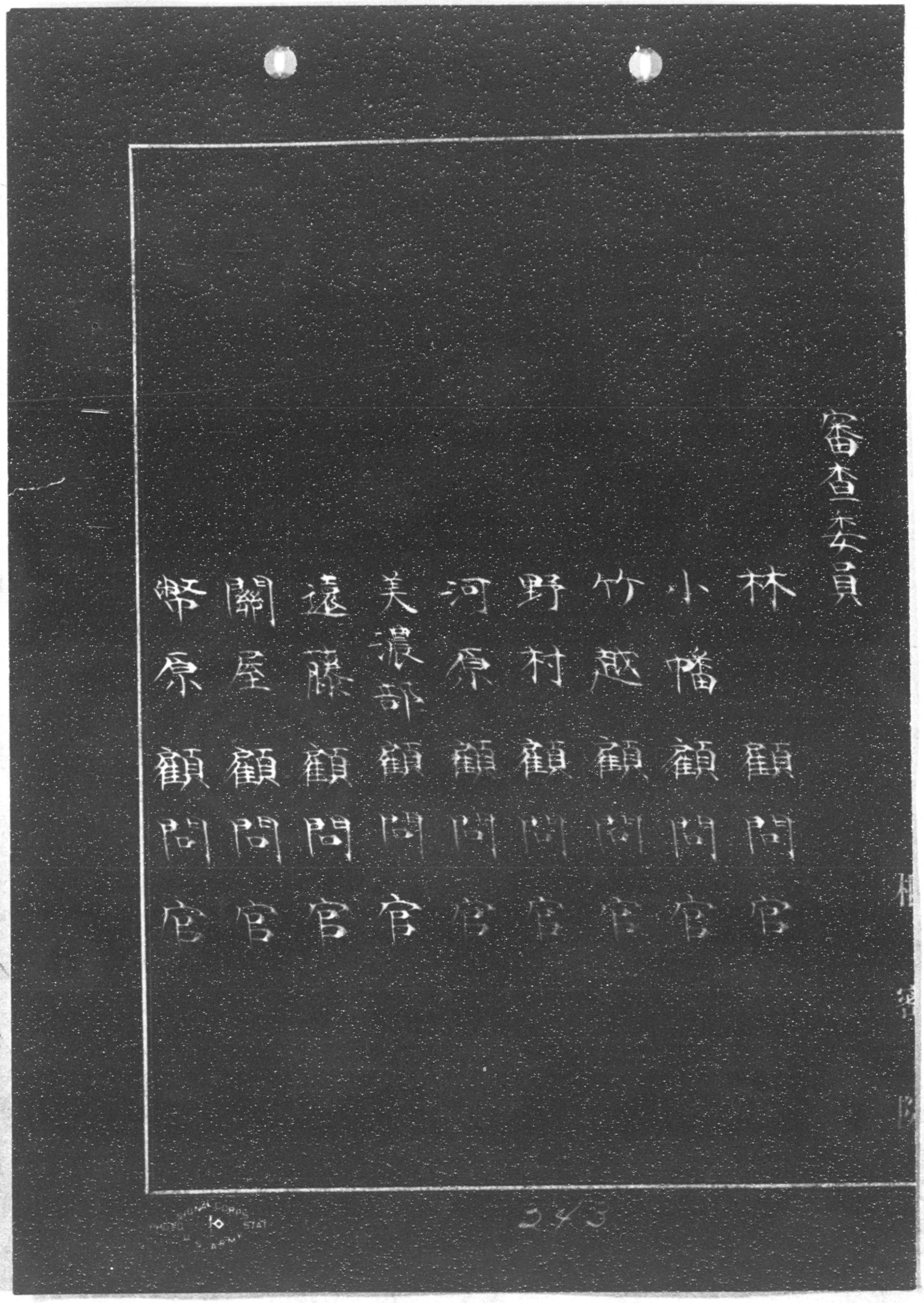
副議長　清水澄

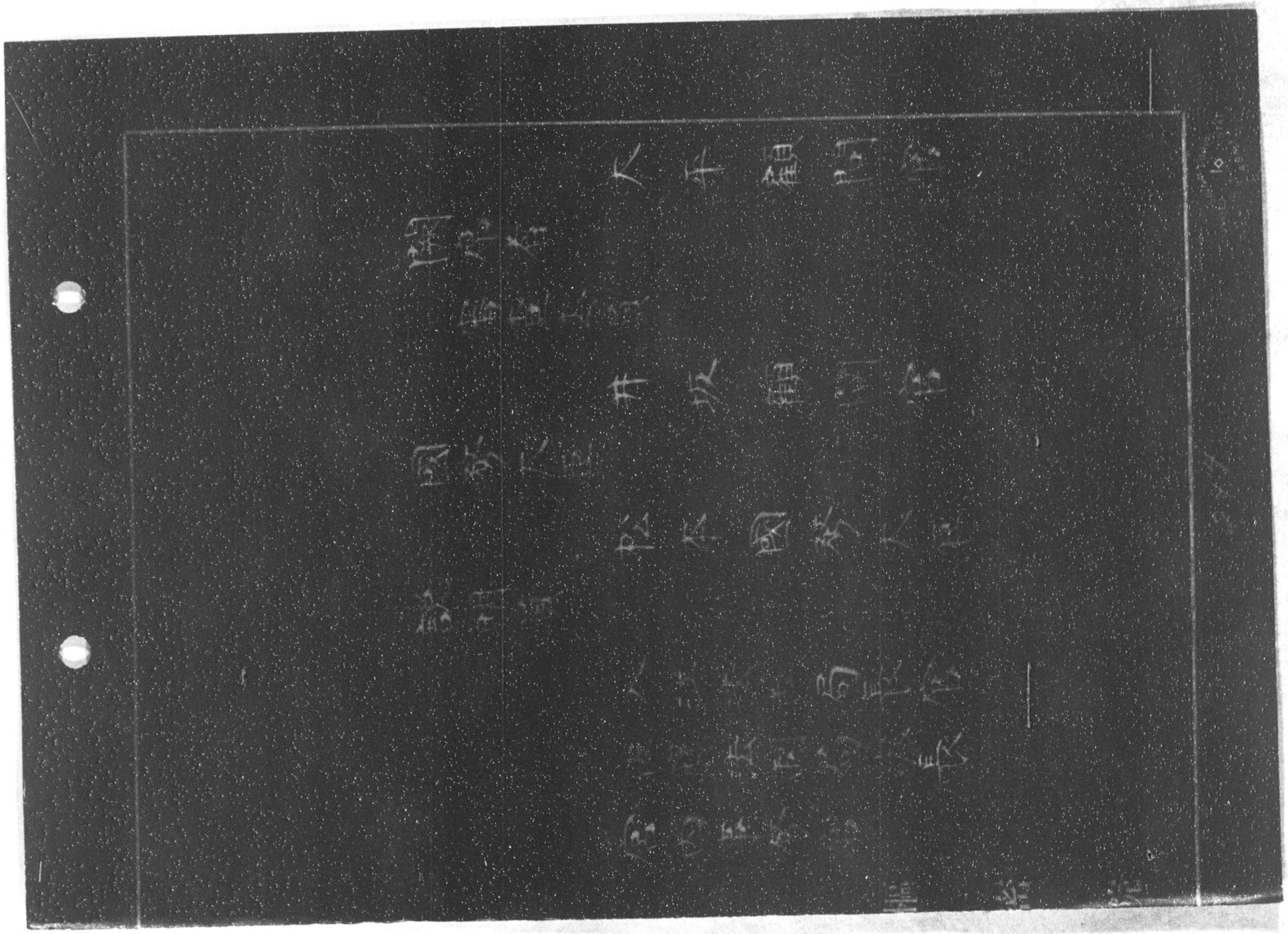
審査委員長　潮恵之輔

顧問官

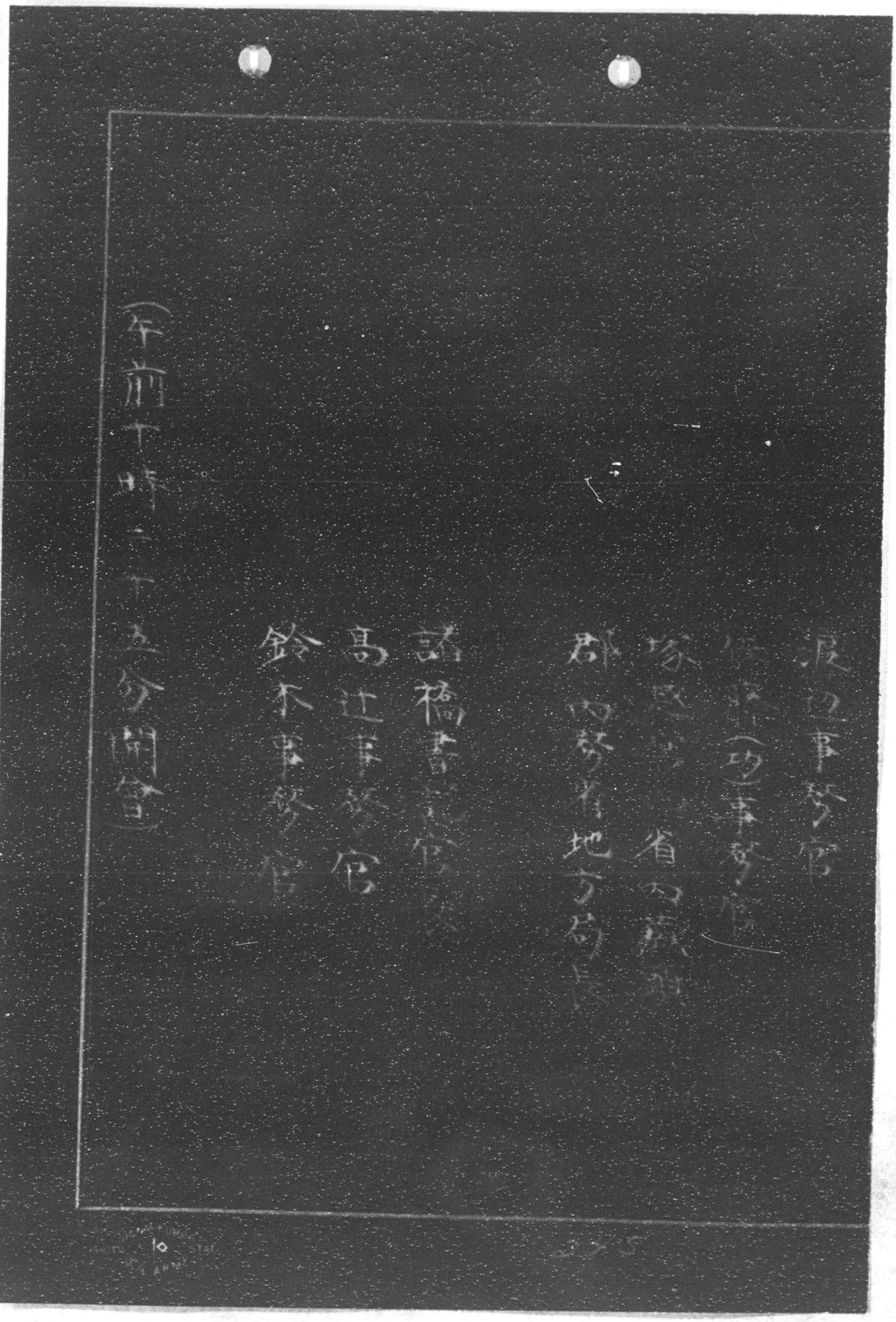
242

U.S. ARMY 10 STAT PHOTO

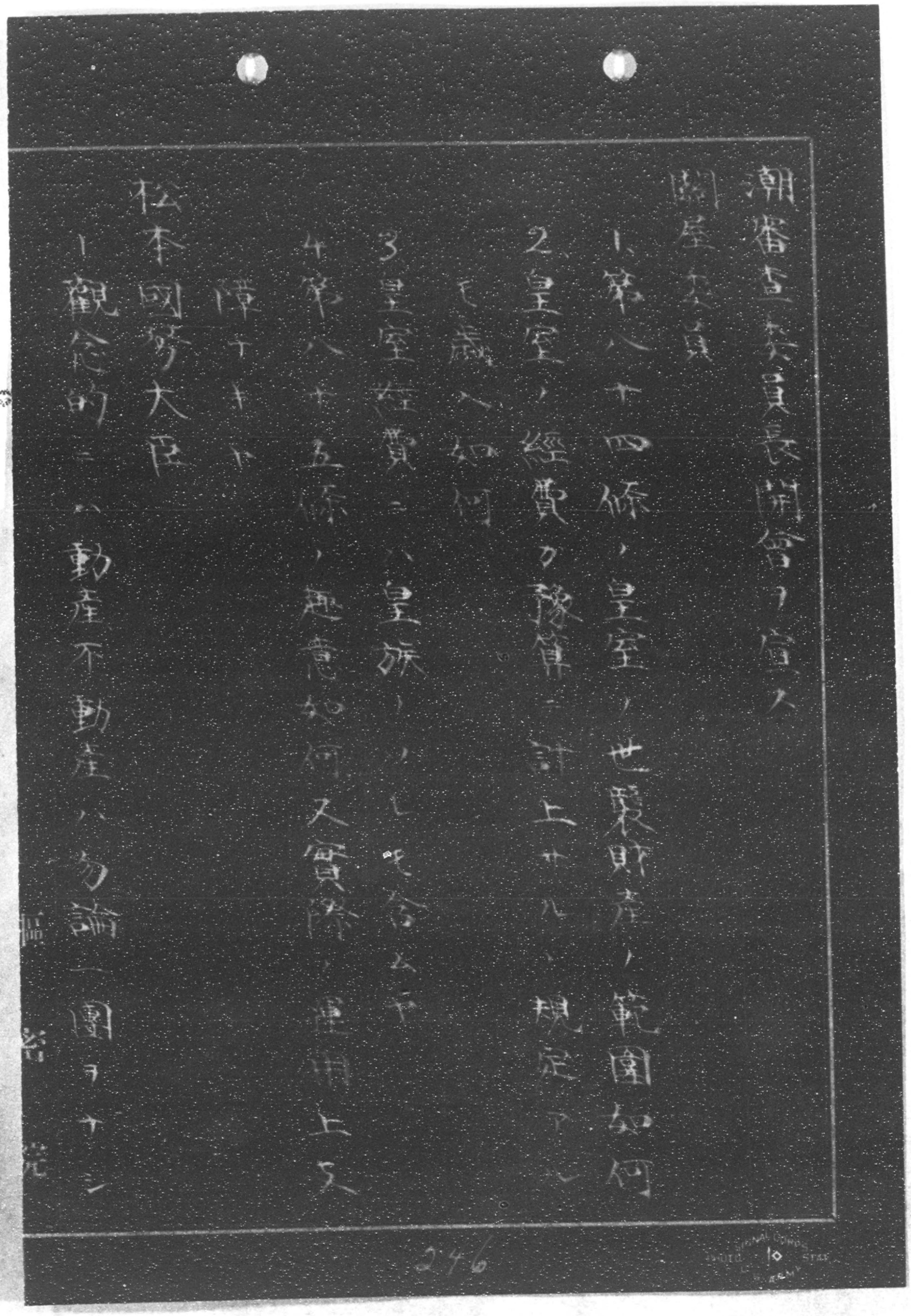

審査委員
林 顧問 官
小 顧問 官
竹 顧問 官
野 顧問 官
河 顧問 官
美濃部 顧問 官
遠 顧問 官
關 顧問 官
幣原 顧問 官
屋藤 顧問 官
243



173-672



F13-012


潮開
1、第八十四條、皇室ノ世襲財産ノ範圍如
2、皇室ノ經費ヲ豫算ニ計上セントスル
3皇室經費ニハ皇族ノ
4第八十五條、趣意如何
松本國務大臣
1觀念的ニハ動産不動産ハ勿論一般ニ
246

第百九皇室財産ヲ含ムモ、今後皇室財産法ニヨリテ決定セラルベシ

第百十收入ハ國庫ノ收入トナルヘキ財産ノ範圍ハ、法律ヲ以テ豫算ニ計上セラルヘキ收入ハ世襲財産ノ收入ニヨリテ決定セラルヘシ

第百十一公金等ヲ使用スルヲ不可トスルニ非スト雖、濫リ運用上支障アル場合ハ各事業ヲ公ノ支配下ニ置カルヘキ措置ヲトラハ足ルヘシ

SIGNAL CORPS U.S. ARMY

潮委員長

一、皇室經費ヲ特別會計ト
2、第八十五條ノ公ノ支配ト要綱ノ國ト
ハ如何ニ異ルヤ又公ノ支配ニ關
根據トナルベキ法ヲ制定スル考ヘ
本國務大臣
ハ未定ナルガ特別會計ト異ルモノ
ルベシ
2、地方團體ヲモ含マシムル意味ニ於
トナシ實效ノ支配ヲ
語ヲ採用セリ
樞密院

SIGNAL CORPS PHOTO 10 S.TAT U. S. ARMY

法ニ関シテハ補助ヲ要スベキモノニ付立
法的ニ解決スル方法モアリ得ベシ
（午後零時一分午後一時五分迄休憩）
第八章地方自治ヲ議題ニ供ス
次ニ第八章地方自治ヲ議題ト致シマス
小幡委員
第八十九條ノ「その他の吏員」トハ何ヲ豫定シ
居ルヤ、又吏員ノ選擧ハ市町村長ノ選擧ト一緒ニ行フヤ別途トナルヤ
八江長官
大都市ニ付テハ特別ノ考査役ヲ公選ニ豫定シ
ナレバ助役一人位ハ考査役ヲ公選ニ豫

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U S ARMY

249

78-672

河原政江根ニ濃ノ地ノ関係ノ如クセザリシハ不可解ナリ、斯クテ

岳ニ限度迄ハ可ナルベシ

法律タル要ス

長官

委員

付未定ナリ

ニ関シテハ技術的ノ困難モアリ選挙ニ関シテハ

以テ委任事務ノ課ニ文障ナキヤ

現在勅令ヲ以テ

府県会ト関係ノ内閣ト國會ト

地方官廳ト地方議會ト関係ノ内閣ト國會ト

250

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STAT

極密院

松本國勢大臣

ハ絶エス行政部ト議會トノ間ニ直接ノ連絡ナク、又住民ノ直接選擧ニ依ルベキ地方行政ノ間ニモ統制ヲ保チ得サルニ非ズヤ

貴見ハ大体ニ於テハ同感ナルモ、本案ニ於テハ國ノ關與ヲ極メテ解スルモノトナシタレバ兩者間ニ衝突ヲ惹起スガ如キ事ハ殆ンドナカルベク、又縣知事ト補助機關トノ關係ニプレシデンシヤルノ色彩ヲ加味シ、行政ト立法トノ分離セシメ、進退其ノ他ニ關シ地方議會ノ意思ヲ尊重スル等ノ點ニ於テ強ク反對ニ地方行政ノ自主的發展ヲ期スルノ趣旨ニ外ナラズ

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STAT

751

思料セシニ由ル又多少ノ数ト
雖ヘ大ニ之ヲ減ジ一人ノ獨立セシメ置ク
ルヲ可トス而モ之ガ數ヲ定ムルニ付テハ
遠藤委員ノ思料セル直接選舉ニ依ル地方團體ニ於テ
ハ實際上頗ル困難ナルヘシ

2、地方自治ノ本旨トハ何ゾヤ

第八十八條ノ運營トハ如何ナル事務ヲ謂フヤ

3、地方公共團體ノ長ニ對シ官吏トシテノ身

252
SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U.S. ARMY

枢密院

今ヲ與フルヤ

江長官

1、地方民ガ地方的ニ結集シ地方民ノ意思ニ従ヒテ行政ヲ為サル、コトヲ解ス

2、回有委任雨事務ヲ行フ旨セリ

3本案ノ本體トシテハ公吏ガ理想タルベキモノト憲法上禁止セルモノトヲ官吏トスヲ官ニ居ラズ要スルニ地方自治ノ本旨ニ

解シ

リテ決定セラルベシ

委員

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STAT

潮条員長

2 地方自治ノ本旨ニ再度説明セラレ度

1 内務省地方局長ノ市制町村制発布ノ際ノ上諭ニ示サレタル

二 供出ニ関シ全テ地方民衆ノ直接選挙セラレバ米ノ

一、往時ノ如ク政黨ノ文武ニヨリテ更迭ノ
途ヲ入レ戻シヤリ更ニ官吏ノ身分保障制度ヲ
セザルヤ
二、地方分權地方自治ノ擴充ニ關聯シ同時ニ
現在ノ府縣區域ノ整理ヲ考慮スベキヤ
アルガ如何
松本國務大臣
一、非選擧吏員ノ動搖ヲ防止スル樣立法的
置ノ要アルベシ然ラバ國民各自ガ民主的
義精神遵法精神ニ徹スル前提トシ
措置ヲ講ズルヤ

SIGNAL CORPS
PHOTO 10 STAT
U.S. ARMY

内務
2私見ニヨレバ現在ノ區域ハ廣キニ過ギ
ニ地方官廳ノ權能ヲ強化スル反面公共團
體ノカヲ少々弱ムル要アルベシ
務省地方局長
ノ區域ノ變更ヲ直チニ行フ考ヘナ
ス
次ニ第九十一條乃至第九十二條ニ關シ
テ一括シテ議題ニ
供
河原委員
第九十二條ニ「天皇ハ國民ノ名ニ於テ」ト
何ナル意味ナリヤ
如

八江長官

實質ヲ不シタルモノ

上論ニシテ、實際上ノ取扱ハ

美濃部委員　第九十三條ハ法律的ニ無意味ナル規定第九十四條、第九十五條何レモ不可解ナル規定ナリ第十章ヲ削除シテハ如何

松本國務大臣　道義的意義ノ濃厚ナル規定ナル點ニ鑑ミ法律ノ實際ニハ支障ナシト認メ削除スルニ意義アリ

SIGNAL CORPS PHOTO U S ARMY STAT

遠藤委員

一、第九十四條ノ「條規ニ反スル法律云々」ハ本案施行ノ際現ニ存スルモノニ關係ナク

二、第九十七條但書ト第百三條トノ關係如何

松本國務大臣

一、第九十七條ノ經過的規定ニ非ズ

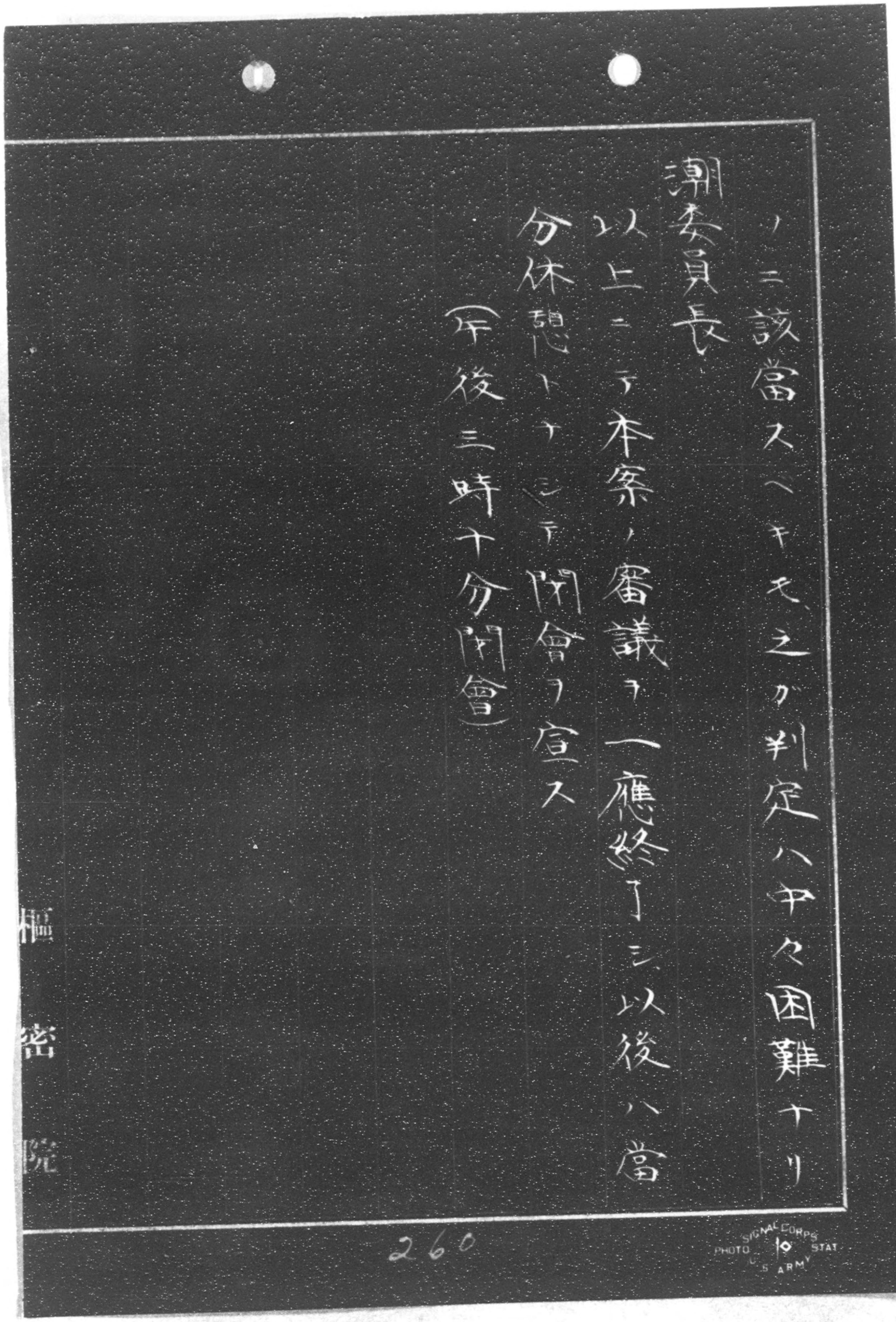
二、第百三條ノ例外ノ一ニシテ

樞密院

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U.S. ARMY

閣屋委員
松本國務大臣
ハ法的效力ヲ有セサル詔勅ト
認メラルヘキ
ヤ
入江長官
金鵄勳章創設ノ詔勅
法的效力ヲ有セサル詔勅ト思料ス
明ニ難キモノ、範圍如何
ハ法的效力ヲ有スルモノ
ハ勅令ヲ以テ、有効無効ヲ分
ケ詔勅ハ別敕ノ件ハ、ず
元帥府設置ノ詔勅第八
十四條ノ適用ヤ
廢止セラルヘキモノ

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U.S. ARMY

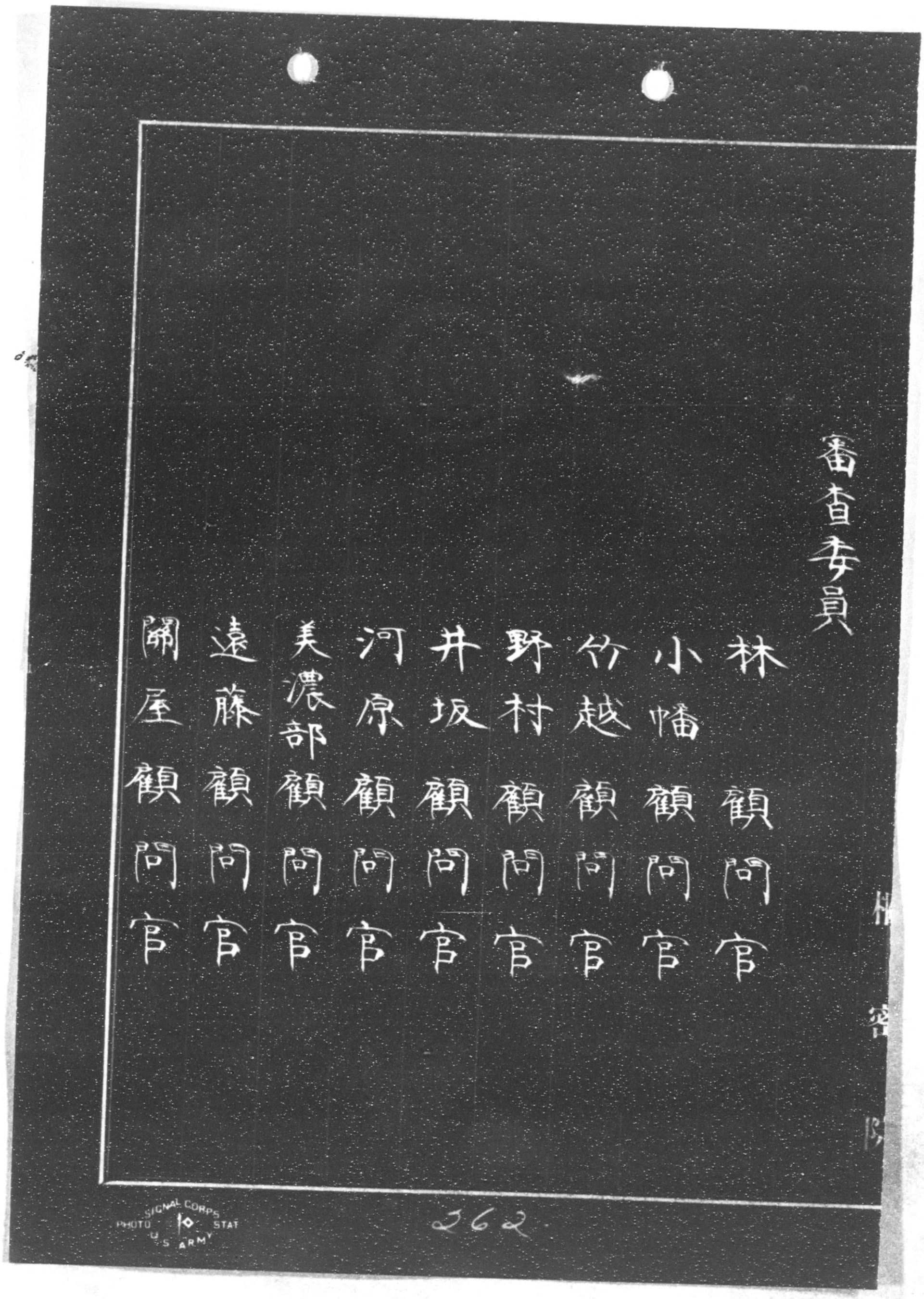

ノ二該當スルヤ否ヤヲ判定スルヤ甚ダ困難ナリ
潮委員長ヨリ本案ノ審議ヲ一應終了シ以後ハ當
以上ニテ本日ノ委員會ヲ閉會トナシテ閉會ヲ宣ス
分休憩
午後三時十分開會
(開會)
機密
院
260
PHOTO SIGNAL CORPS U.S. ARMY STAT

帝國憲法改正案ノ帝國議會
第一回帝國議會審査委員會
昭和二十一年五月二十九日（水曜日）
枢密院事務所ニ於テ開會

出席者

鈴木　議長
清水　副議長
審査委員長
潮
顧問官

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U S ARMY


審査委員
林顧問官
小幡顧問官
竹越顧問官
野村顧問官
井坂顧問官
河原顧問官
美濃部顧問官
遠藤顧問官
關屋顧問官
SIGNAL CORPS
PHOTO
U.S. ARMY
STAF
362

178-972

國務大臣　幣原顧問官

大平顧問官

說明員

吉田内閣総理大臣

入江法制局長官

佐藤法制局次長

井手事務官

渡邊事務官

佐藤（榮）事務官

SIGNAL CORPS PHOTO STAT ARMY

176-672

諸橋書記官長
高辻事務官
鈴木事務官

朝委員長開會ヲ宣ス（午前十時三十五分開會）

審査ノ順序ニ依リ先ツ吉田内閣總理大臣ヨリ、今回御諮詢ノ本案ノ前草案ニ對スル本院審査委員會ノ意見ニ從ヒ研究ノ上字句若干訂正シタルカ、

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U.S. ARMY

364

前草案ノ實質ヲソノ儘踏襲シタルコト及
月十日頃開會セラルヽ議會ノ勞頭ニ本案ヲ
出シ度キ意向ヲ述ベテ本院委員會ノ審議
フ旨挨拶アリ
次デ審議ニ入リ潮委員長ヨリ本案ヲ一括議題
ス
林委員
左ノ二點ニヨリ本草案ヲ速急ニ
ルコトナク愼重綿密ヲ旨トスベク思
ガ、之ニ對スル政府ノ所見如何、

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STAT

175-672

吉田内閣總理大臣

一、國内的ニハ本案ノ革新性ハ一部ノ反對ヲ除キ各方面ニ於テ否認メラレ、議會ニ於テ否決ノ可能性少キニヨリ審議ヲ急ゲ要ナキコト

二、本案ハポツダム宣言ノ趣旨ニ適合シアルニ付國際的ニモ否認セラルヽ惧レナキコト

成立セシムルヲ日本ノ爲ト考フ

内閣總理大臣ノ緊迫セル情勢ニ外ノ上、新憲法ハ一刻モ早ク

極密 院

SIGNAL CORPS PHOTO STAT U S ARMY

366

林委員

本案ハ形式、内容共ニ未熟ノ點尠カラズ、元ヨリ師モ對日理事會ノ席上、原則ニ變更ヲ加ヘザルガ如キ形式的、細目的ノ修正ハ可能ナル旨ヲ述シ居リ、不適當ナル表現或ハ細目的修正ニ關スル規定ノ訂正ヲ行ヒテ差支ナキモノト思ヘバ特赦ト刑ノ執行ノ免除ヲ併記スルガ如何、

吉田内閣總理大臣

研究シ度シ

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STAT

林委員
根本問題ノ一トシテ、政府ハ、主権ガ何人ニ存
ス
ルト考フルカ
吉田内閣総理大臣
研究ノ上決定シ度シ
野村委員
、武力ヲ保持セズシテ、占領軍ノ撤收後起ル
コトアルベキ非常事態ニ能ク對處シ得ル
カヲ深ク憂フ、降伏文書ニハ武裝解除ノミ
ヲ謳ヒ、日本ガ未來永却ニ武力ヲ保持シ得

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U.S. ARMY

368

ヘ

ザルモノト解スベキ根據ナケレバ、本官ハ
第九條第二項ノ規定ハ削除サレンコトヲ
切望ス

二、皇室經費ニ關スル豫算ガ議會ニ於テ否決
セラレタル場合ニハ皇室ハ無一物トナル
ノ憂アリ、皇室財産ヲ國ノ所有トナス規定
削除セラレ度シ

（正午―午後一時半迄休憩）

江法制局長官（林委員ノ質疑ニ對シテ）

本案ノ「特赦」ハ字句ニ於テ現行憲法ト同一

SIGNAL CORPS PHOTO - ◇ STAT U.S. ARMY

河原委員　ルガ範圍ハ多少異ナルモノトシタルニ付特ニ内容必ズシモ刑事訴訟法ノ執行ノ免除ニ非ザルモノト解ス

吉田内閣總理大臣　故ニ七條修正ノ可能性アリヤ、本官ハ第八十四條修正ニテ修正サレンコトヲ希望ス

帝國議會ニヨリ修正ヲ加ヘラルヽコトハ可能ナルベシ

遠藤委員

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U S ARMY

本案ニ依レバ内閣ガヤヘ、弱體ナリト考ヘラルル、
閣屋委員ニ付之ガ強化ヲ計ラレ度シ
法文ノ用語ハ可及的國民感情ニ一致セシムルアリト本官ハ思料スルガ、本案ノ全條文ヲ
ル安二旦リテ修正可能ナルヤ
吉田内閣總理大臣
基本原則及ベーシックフオームヲ變改スルベシ
ル限リノ修正ハ可能ナラザ
幣原委員

秘
院

PHOTO SIGNAL CORPS U S ARMY 10 STAT

林委員

吉本官ハ國内ノ擾亂ヲ深ク憂フルモノナルガ
治安上遺憾ナキヲ期シ得ルカ
田内閣總理大臣
占領軍ノ撤收時期ハ
ルモノナレバ、現在之ニ對スル豫想困難ナリ

一、思ふに二開スル當句ノ各將ハ誠ニ遺憾ナリ
二、第六十一條及第七十二條ノ修正ノ意義如何
三、第七十七條ノ最高裁判所ノ權限ニ關スル

一二 婦和條約ノ締結ニ係

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U.S. ARMY

入江長官ノ説明ハ法文ニ表

2、主権ノ一態様タル行政権ハ三権分立ノ

前提ヨリ内閣ニ帰属シ、之ヲ行フハ第六十

條デ定ムトスベキ本来ノ趣旨ニ適合セ

ザリシタリ

3、前回説明ノ趣旨ハ憲法ニ適合スルカ否

ヤ裁判ノ際ニ具體的ニ定ムルノ意ナリ

林委員

現ニ政府ニ於テ政府ノ説明ハ法文ニ

前委員會ニ於ケル政

273

SIGNAL CORPS PHOTO STAT U.S. ARMY

違憲ナリヤ否ヤノ判定ガ許ヘアルモノニ限ルトセバ、判決ノ效果ハ當事者ノミヲ拘束スルニ過ギザルベシ、須ラク一般的ナモノトスベシ、又下級裁判所ニ對シテモ本條ノ趣旨ヲ擴張スベシ

入江長官

附屬法令ノ立法ニ際シテ研究シ度シ、尚下級裁判所ニ對シ命令、規則、處分ノ判定ヲ行ハシムルコト差支ヘナキモノト考フ

場合ハ最高裁判所ニ上訴シ得ルノ

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STAT

林吉八潮

途ヲ講ズル要アルベシ

委員

主權ノ所在ニ關スル說明如何

田内閣總理大臣

法制局長官ヨリ說明スベシ

江長官

前回ノ說明ニ同シ

委員長

第五十條ノ參議院ノ緊急集會ハ衆議院

ノ場合ニ限定セズ、國會ノ閉會中ニモ適用シ

解散

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STAT

入江長官ハ如何
テ然ル場合ハ議會ヲ召集スルノ外ナシ、然此範ノ外當局トシテハ、緊急勅令ニ代ルベキ
ナル委任命令、財政ニ關スル承認、暫定豫算或ハ豫備費ノ活用等ノ
段ニ付考究中ナリト以テ政府ニ對スル質疑ヲ終リ政府側退
其席ヲ以テ上ノ一人ノ
(午後二時五十分)
後審査委員ノミニテ委員會ヲ續行シ本委

極密
院

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U. S. ARMY

更會ノ結論ニ付協議セルガ
コトシテ散會セリ
（午後三時十分閉會）

SIGNAL CORPS PHOTO STAT U.S. ARMY

帝國憲法改正案ヲ帝國議會ノ議ニ付スルノ件

樞密院ニ審査委員會

昭和二十一年六月一日（土曜日）樞密院ニ於テ開會

出席者

議長　木

副議長　鈴

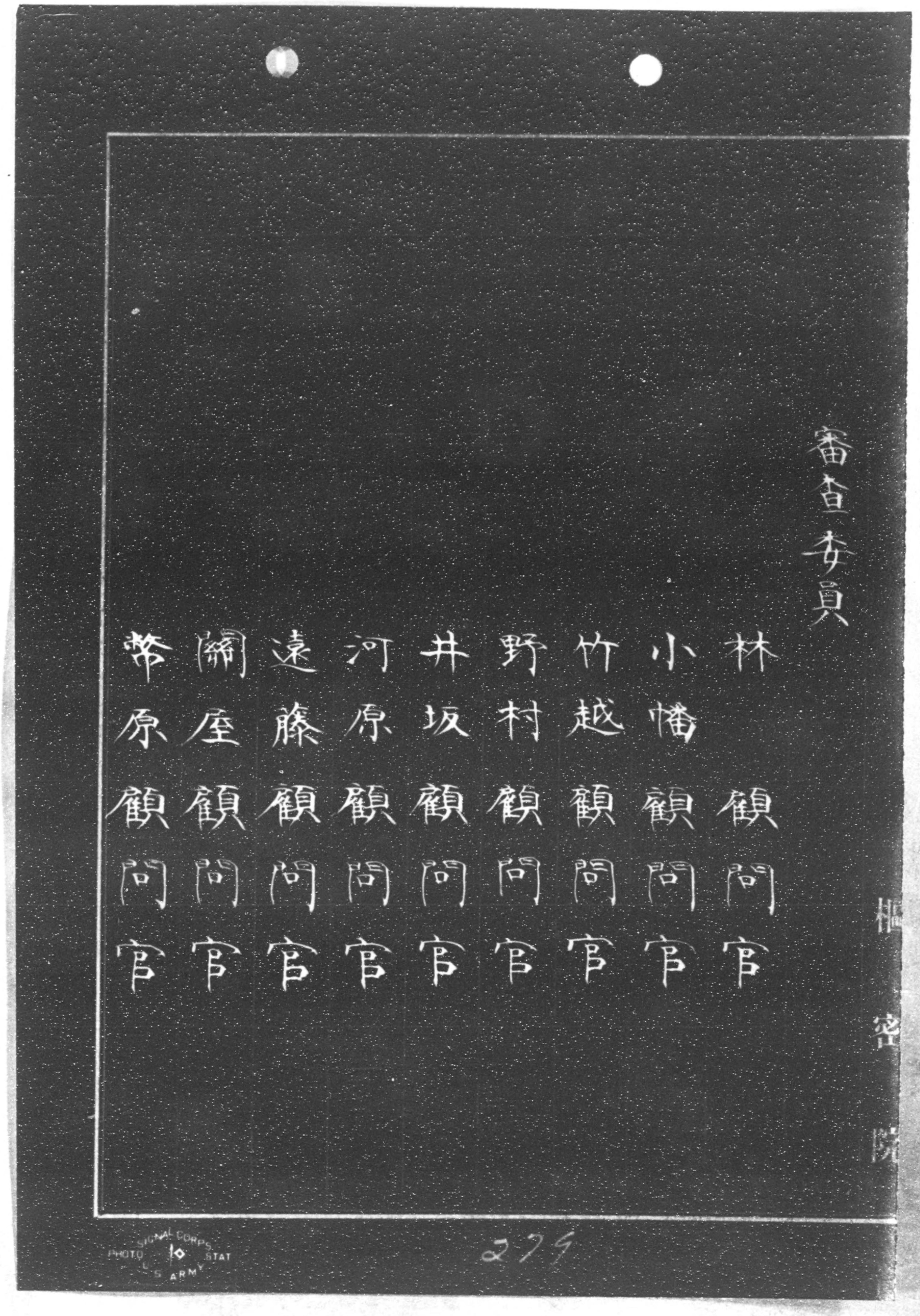
清水

審査委員長　潮

顧問官

278

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STA U.S. ARMY


審査委員
小林
竹野
井河
遠嗣
幡越
村坂
原藤
座原
顧顧顧顧顧顧顧顧顧
問問問問問問問問問
官官官官官官官官官
SIGNAL CORPS
PHOTO
STAT
U.S. ARMY
279

潮委員長（午後一時五分開會）

開會ヲ宣シ審査報告案ヲ議題ニ供ス

開會者

大平顧問官

美濃部顧問官

諸橋書記官長

高辻事務官

鈴木事務官

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY 10 STAT

小高　閘野

辻事務官審査報告案朗讀

幡委員

本案ニ依レバ憲法草案ハ直接ポツダム宣言ノ淵源ヲ求ムベキニ非ザルガ如キモ、寧ロ勅語ニ基キ起草セラレタルガ如キ疑點ヲ政府ニ訊スベキ臨時議會ノ開會迄猶時間的餘裕アラバ、更ニ慎重ニ審議ヲ盡スノ必要アルカ

岡屋委員

村委員

本案ハ政府ノ原案ヲ可トシ之ヲ得ザルモノトシ

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STAT

林委員　シノテ肯定シアルカ、委員會ノ席上重大ナル論議ヲ
野委員　リタル點例ヘバ事實上自衛權ナキ點
委員長　テ政府ニ適當ナル建言ヲナスベシ
潮委員　同感ナリ、時アレバ論議
盡シ愼重、綿密ナル審議コソ肝要ナリ
安井委員會ニ於テ論議ノ必要或ヒハ修正
木村委員ノ意見ニ同意セバ本官ハ、政府ノ說明ヲ
史ニ求ムルニ吝カナラズ

井　開

諸橋書記官長

審査報告ハ多数ノ意見ヲ表明シタルモノニ

必ズシモ個人ノ意見ト一致セザルコトアリ

點ヲ諒セラレ度シ、尚先ノ

案ヲ修正スベキカ否カ

度ヲ決セラレ度シ

開シ本委員會

別紙ノ如キ修正意見ヲ

委員

坂委員

無修正ニテ進ムベシ

述ブ

故ニ

ル草態

SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STAT

林委員
本案ハ内外ノ情勢上急ヲ要スル旨ノ政府ノ
言明ヲ信ジ己ムナク是認スルノ態度ヲ執ル
ベシ
討デ之ニ對シ關屋委員ヲ除キ各委員ノ贊成ア
之ノ態度ニ從ヒテ本審査報告案ノ可否ヲ次
セリ
検

（午後三時半閉會）

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U S ARMY

帝國憲法改正案ヲ帝國議會ノ議ニ付スル
第三回審査委員會
昭和二十一年六月三日(月曜日)樞密院事
務所ニ於テ開會

出席者

鈴木議長
清水副議長
潮審査委員長
顧問官

樞密院

285

SIGNAL CORPS PHOTO - 10 - STAT U.S. ARMY

審査委員

小林幡　顧問官

竹越村　顧問官

野原　顧問官

河原　顧問官

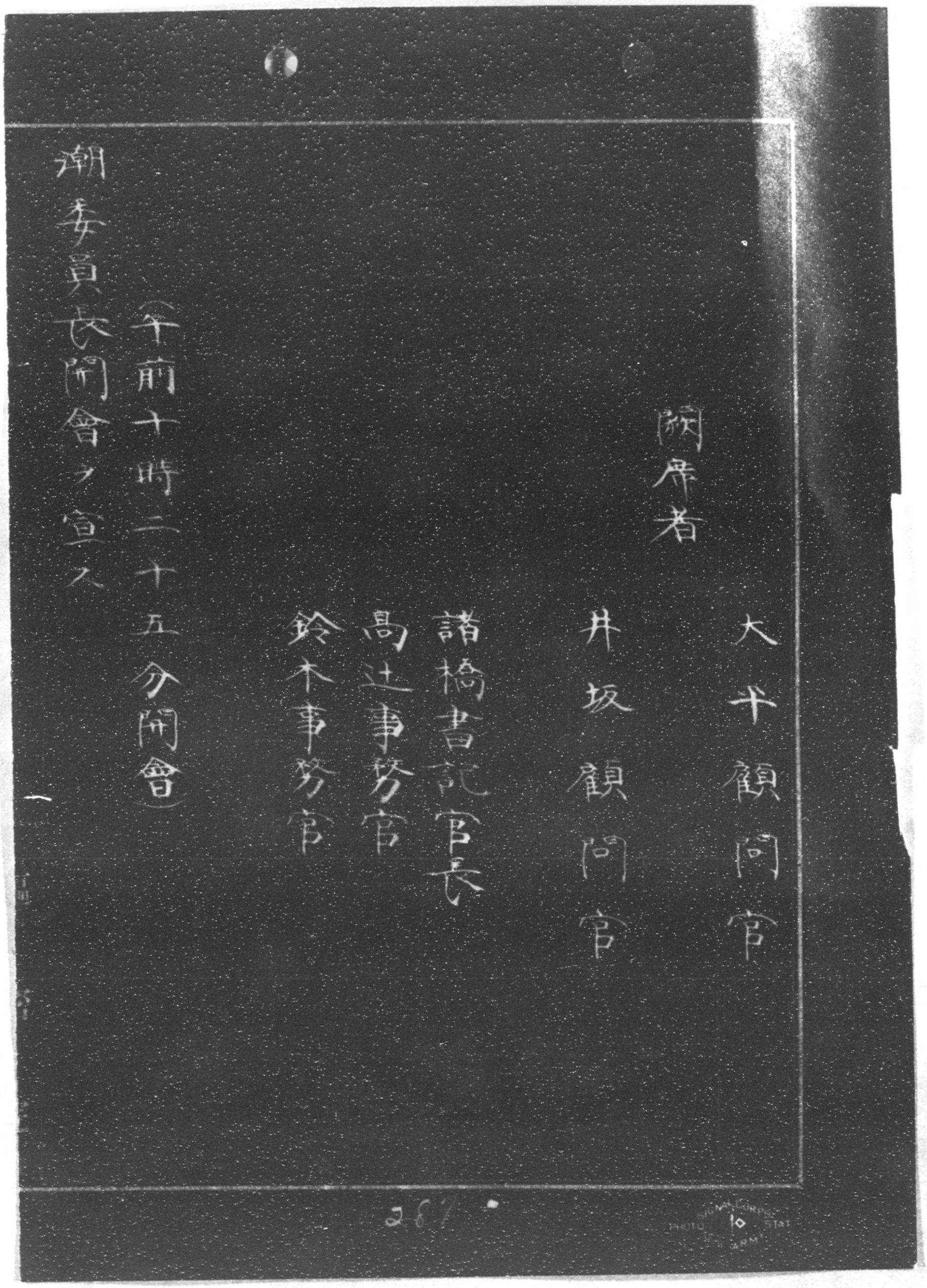
美濃部　顧問官

遠藤屋　顧問官

關幣原　顧問官

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U S ARMY

256


潮委員會（午前十時二十分開會）
大平顧問官
井坂顧問官
諸橋書記官長
高辻事務官
鈴木事務官
列席者
一
287
SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT ARMY

府回ヨリ引継イテ審査報告案ノ検討ヲ行ヒ、別紙ノ審査通リノ内容ヲ以テ決定シ、次テ潮委員長ヨリ委員會ノ決ヲ採リタルトコロ、美濃部委員ヨリ外各委員ノ賛成アリ、結局多數ヲ以テ

潮議ヲ

審査ノ

通リノ内容ヲ

決定シ、次テ潮委員長ヨリ

委員會ノ決ヲ採リタルトコロ、美濃部委員ヨリ外各委員ノ賛成アリ、結局多數ヲ以テ

委員長ヨリ

審査報告案ノ検討ヲ行ヒ、別

(午後三時二十分閉會)

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT U.S. ARMY

もつと考へてゐる旨答辯があつた。
潮委員長本日はこれ迄とし、閉會を宣す。
(午後零時五分閉會)

SIGNAL CORPS PHOTO U S ARMY STAT

帝國議會において修正を加へた帝國憲法改正案第二回審査委員會

昭和二十一年十月二十一日（月曜日）樞密院事務所において開會

出席者

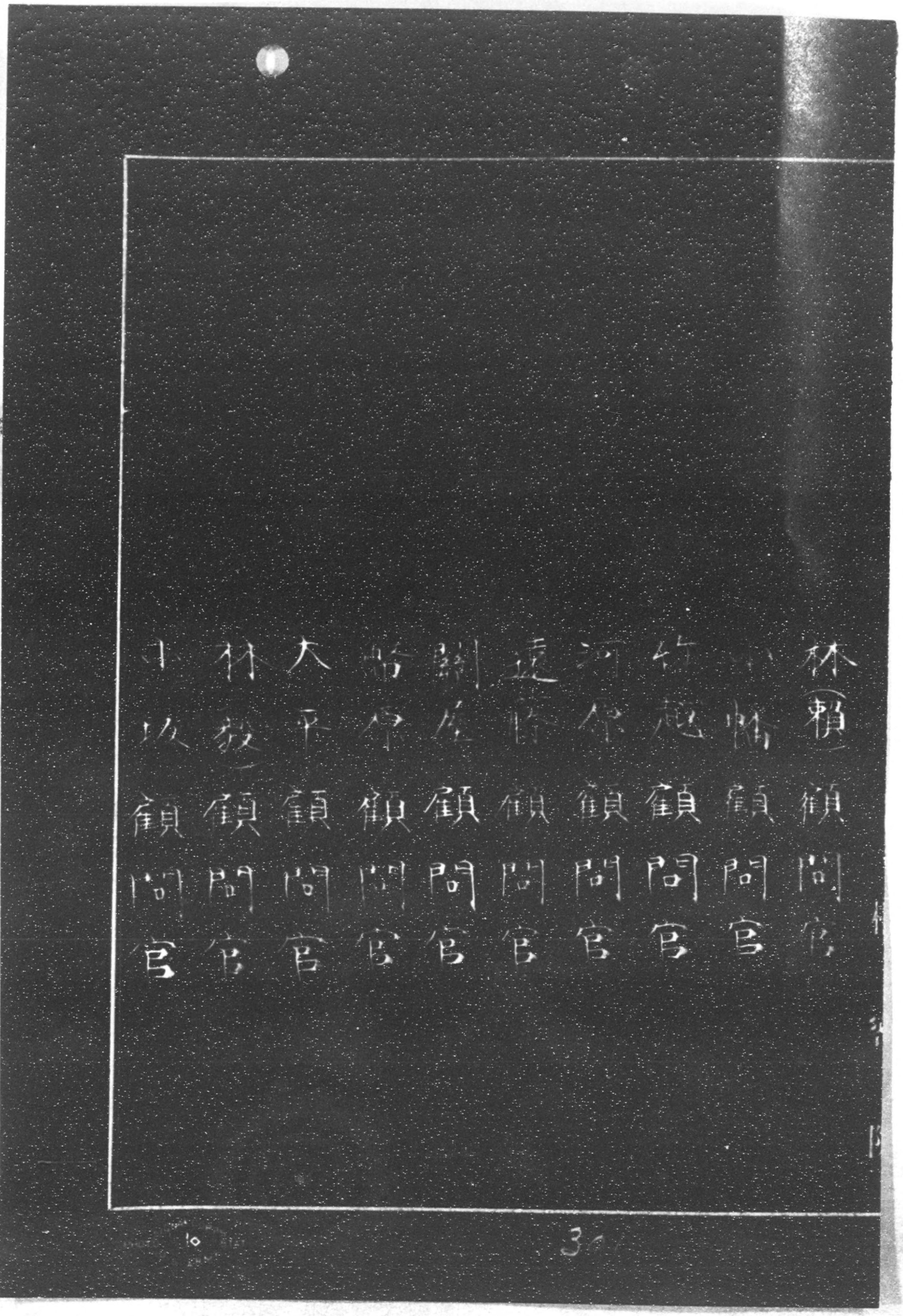
審査委員長　清水議長

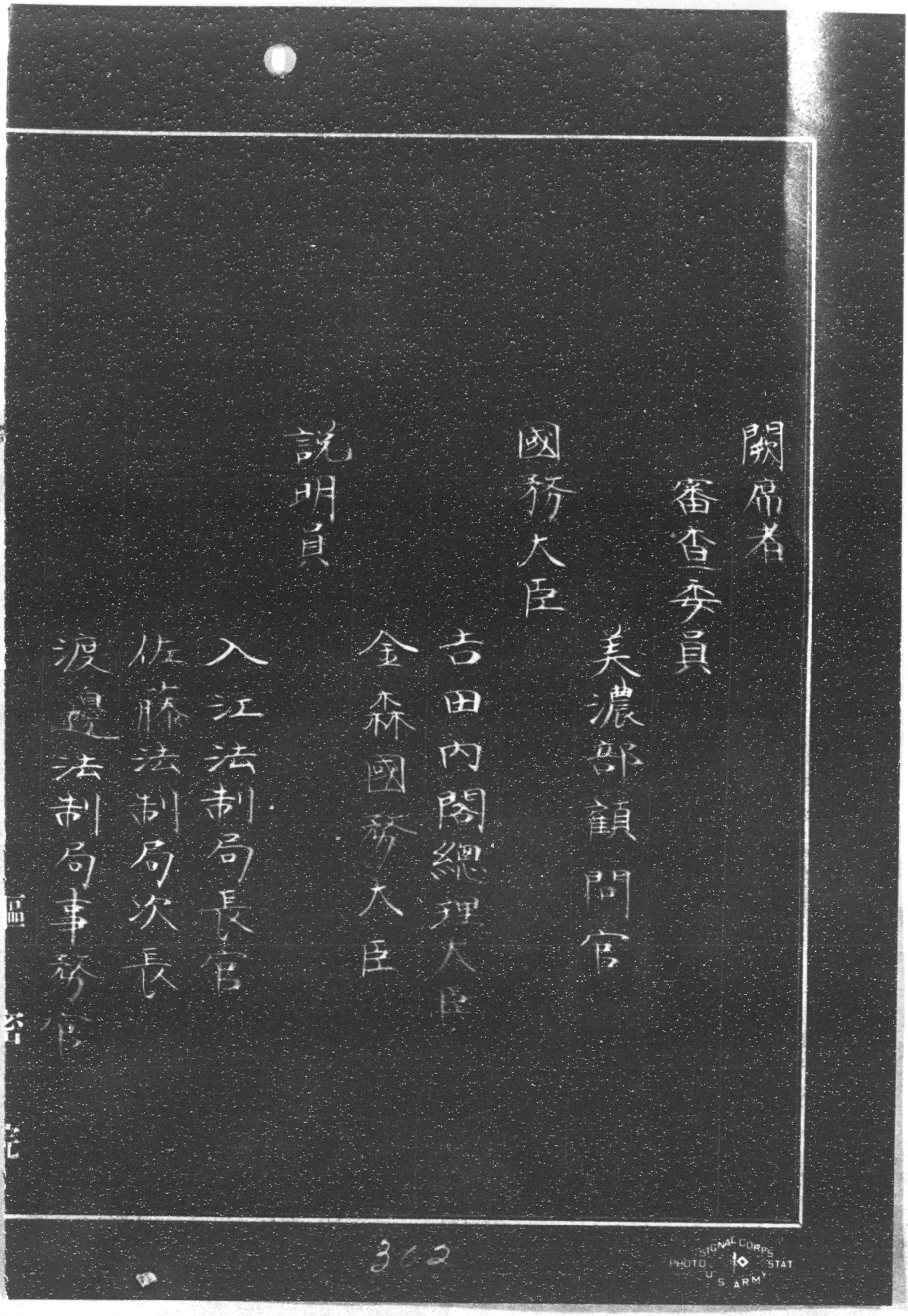
審査委員　潮副議長

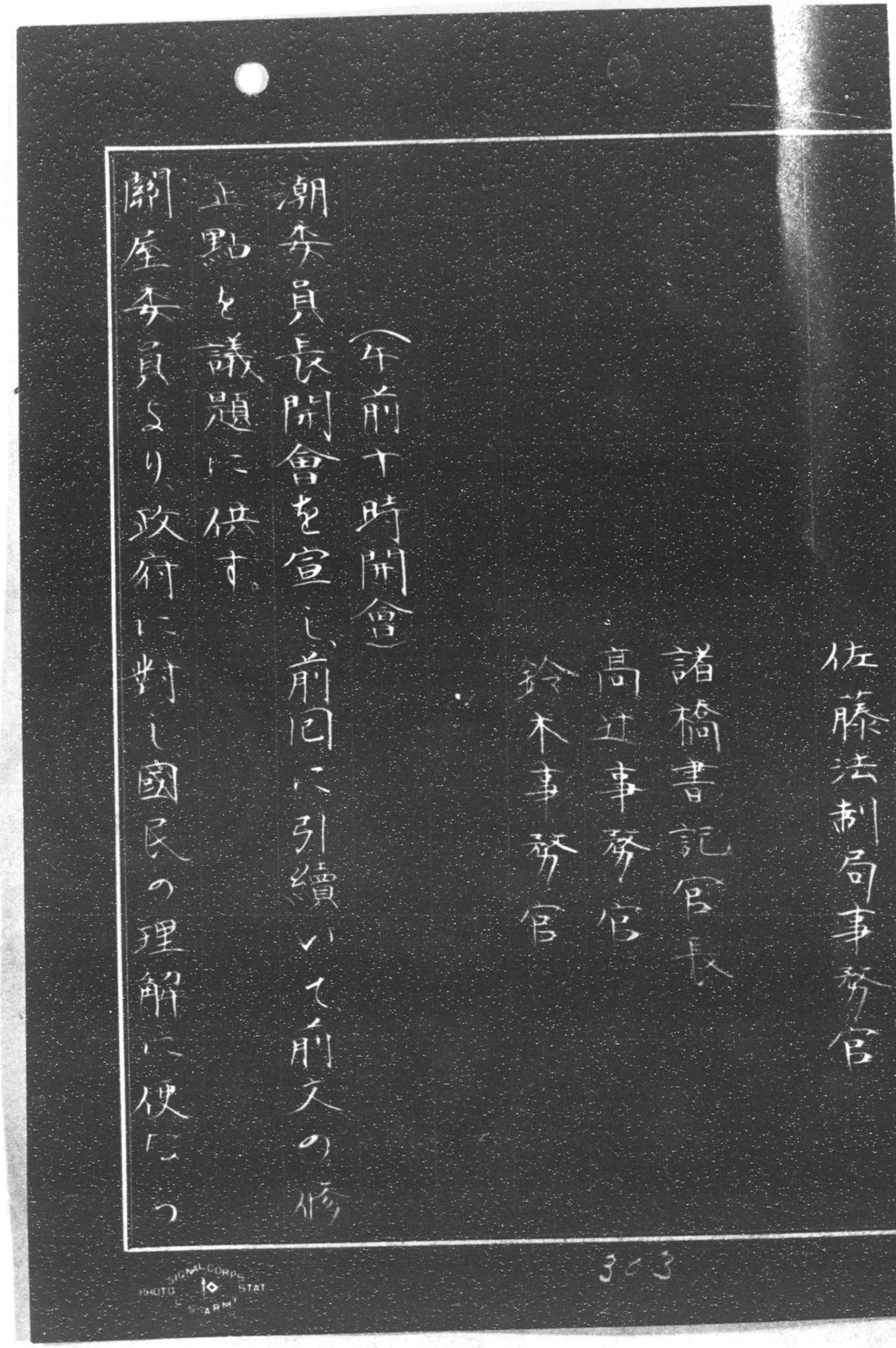
審査委員

3 C 11

SIGNAL CORPS PHOTO. U.S. ARMY STAT


林小竹河邊鄰幽大林士
坎救平停左時停趣幽賴
顧顧顧顧顧顧顧顧顧顧顧
問問問問問問問問問問問
官官官官官官官官官官官


關係者
審查委員
國務大臣
說明員
美濃部顧問官
内閣總理大臣
金森國務大臣
吉田
入江法制局長官
佐藤法制局次長
渡邊法制局事務官
3 6 2
SIGNAL CORPS
PHOTO
U S ARMY
STAT


朝委員長開會を宣し、前回に引續いて刑文の一部を改正する法律案（内閣提出）を議題に供す。
午前十時開會
委員長
正點を
議事
佐藤法制局事務官
諸橋書記官長
高辻事務官
鈴木事務官
内閣
SIGNAL CORPS PHOTO U.S. ARMY STAT
303

しめるや
希望意見
の意味と
臣より、修
趣旨の答
二、第一章
林頼委員
に關する
り、國事
権能との
特に、政治的色彩のない觀念を表現する目的を

SIGNAL CORPS PHOTO U S ARMY STAT

以て、新に「國事」と言ふ語を用ひた旨答辯があつた。

又、遠藤委員より、本案は帝國憲法改正案とあるが、その「帝國」なる語に意味があるかを問ひ、金森國務大臣より、本來「大日本帝國憲法ニ」とすべきであるが略稱を用ひた旨答辯があつた。

三、第二章「戰爭の放棄」について

林(賴)委員より、第九條第一項の規定によれば、國際間の紛爭の場合のみを規律してゐるから、小規模の内亂紛爭、詰り國内紛爭の場合はそれに

相應しい武力の行使は別段禁止しないものと解すべきかを訊し、金森國務大臣より、本條第一項は國内の場合については爭乱の鎮壓手段及び自國との間の問題に關するものであり、然し第二項の規定に依る事實上戰力の保持が出來ないから、結局行使が出來ないものと解する、此の點に於ては政府の見解は原案の場合と全然同一の目的を達するためと」いふ、第一項の「國際平和を希求するといふ

SIGNAL CORPS PHOTO U S ARMY STAT